

想定される技術項目の考え方について

平成20年度に策定した前計画から5年が経過し、その間の技術革新と世界の技術動向の変化を加味して、以下の考え方に基づき、技術項目の追加・統合を行った。

追加の考え方

- 技術革新による新たな技術
 - 人工光合成 等
- 社会的な状況変化により必要とされている技術
 - 地熱発電 等
- 国内のみならず海外における削減ポテンシャルの観点から有望な技術
 - 海洋エネルギー利用 等
- 技術項目の乱立を避けるため、上記の各項目に該当しない、又は不十分であると考えられる技術については、追加を行わない。

削除の考え方

- 技術が十分に成熟したもの
- 2050年までの導入が見込めないもの
- 温室効果ガスの削減効果が小さいもの

統合の考え方

- 技術項目の乱立を避けるため、可能な限り項目は統合する
- 一方で、温室効果ガス削減が十分に大きいものや、諸外国、国際機関における計画で単一の項目となっており、将来的な諸外国・国際機関との連携の際に単一の項目となっていることが適当な技術は、単一の項目とする
- 統合にあたっては、技術要素そのものの類似性はもちろん、用途としての相関性・代替性、技術開発要素間の類似性等を考慮する

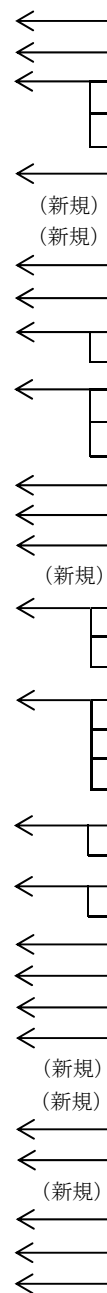
技術項目 新旧対照表

(別紙)

新(改訂版の技術項目)

旧(環境エネルギー技術革新計画の技術項目)

エネルギー供給技術	火力発電	高効率天然ガス発電
		高効率石炭火力発電
	原子力発電	原子力発電
		再生可能エネルギー
	送電	超電導送電
エネルギー需要技術	運輸	次世代自動車
		航空機・船舶・鉄道
		高度交通システム
		環境調和型製鉄プロセス
	産業	革新的製造プロセス
		高効率エネルギー産業利用
		民生・業務
	横断的技術	革新的デバイス
		水素製造・輸送・貯蔵
		バイオマス利活用
高効率ヒートポンプ		
燃料電池		
高性能電力貯蔵		
エネルギーマネジメントシステム		
革新的構造材料		
蓄熱・断熱等技術		
二酸化炭素固定技術		二酸化炭素回収・貯留(CCS)
	植性による固定	
	人工光合成	
その他の技術	その他(メタン等)温室効果ガス削減技術	
	温暖化適応技術	
	地球観測・気候変動予測	



高効率天然ガス火力発電
高効率石炭火力発電
高速増殖炉サイクル
次世代軽水炉(軽水炉の高度利用含む)
中小型炉
太陽光発電
風力発電(洋上発電)
超電導送電
ハイブリッド・電気自動車
燃料電池自動車
高効率鉄道車両
低燃費航空機(低騒音)
高効率船舶
高度道路交通システム(ITS)
水素還元製鉄
革新的製造プロセス
省エネ住宅(断熱材・断熱ガラス)
超長期住宅(住宅の長寿命化による廃棄物等の削減)
環境性能評価技術(CASBEE等)
テレワーク
省エネ家電・情報機器(グリーンIT)
高効率照明
パワーエレクトロニクス
水素製造
水素貯蔵・輸送
バイオマス利活用(ガソリン代替系)
バイオマス利活用(軽油代替系)
高効率ヒートポンプ
定置用燃料電池
高性能電力貯蔵
エネルギーの面的利用
二酸化炭素回収・貯留(CCS)
植性による固定(スーパー樹木)
その他(メタン等)温室効果ガス削減技術
温暖化適応技術
地球観測・気候変動予測